

人為的に剥皮した原木からの子実体発生量について

1 はじめに

近年、シイタケ原木の価格高騰が問題となっている。価格高騰の一因は手作業による生産であり、グラップル等の林業機械を用いた生産により価格が低下するが、樹皮が剥がれることが予想される。樹皮が剥がれた原木からの子実体発生量は不明であることから、林業機械で生産した原木の利用可能性を検討するため、人為的に剥皮した原木からの子実体発生量調査を行った。

2 研究方法

調査は生シイタケハウス栽培の生産者のもとで行った。令和3年と4年の2回、コナラ・ミズナラ原木をノミ等を使って辺材が現れるように剥皮した。原木の樹皮表面積に対する剥皮率は0、2.5、5、10、25%とした(写真)。剥皮後、オガ菌(秋山種菌 A-511号)を植菌し、ハウス内で仮伏せ、本伏せした後、浸水による発生操作を行い子実体を採取した。以後、休養と発生操作を繰り返し各年5回の子実体採取を行い、子実体生重量を測定した。また、剥皮率0%の子実体生重量を100として、各剥皮率の子実体生重量

を相対値化し(例: R4の剥皮率25%の子実体重量の相対値は $154/195=80\%$)、相対重量を求めた。

3 結果

子実体は樹皮部分から発生し、剥皮部分からは発生しなかった。剥皮率ごとのホダ木1本当り子実体重量を図-1に示す。剥皮率と相対重量の関係を図-2に示す。剥皮率が高まるほど子実体重量は低下する傾向がみられた。これは、樹皮の無いところから子実体は発生しないためと考えられる。なお、剥皮率間で子実体の大きさに差は認められなかった(図-3)

4 おわりに

今回は人為的に剥皮して調査を行ったが、グラップル等林業機械で生産した原木についても調査する予定である。

謝辞:本研究は(株)秋山種菌研究所、(有)立花椎茸農園との共同研究で実施され、有益な御助言、栽培管理の労を賜りました。記して深く感謝申し上げます。



0% 2.5% 5% 10% 25%

写真 剥皮の様子(黄色枠が剥皮部分)

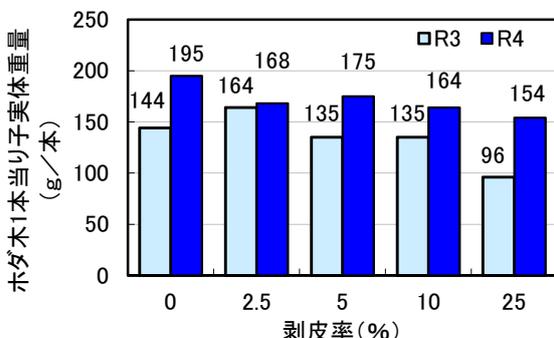


図-1 剥皮率ごとのホダ木1本当り子実体重量

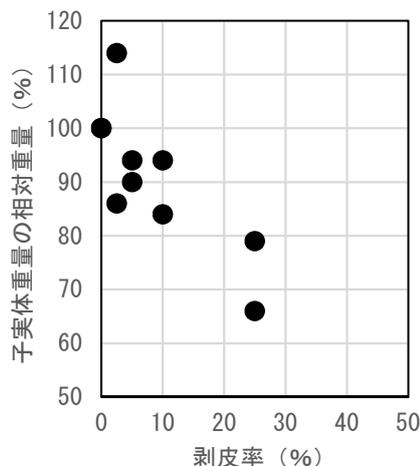


図-2 剥皮率0%の子実体重量を100とした場合の剥皮率と子実体重量の関係

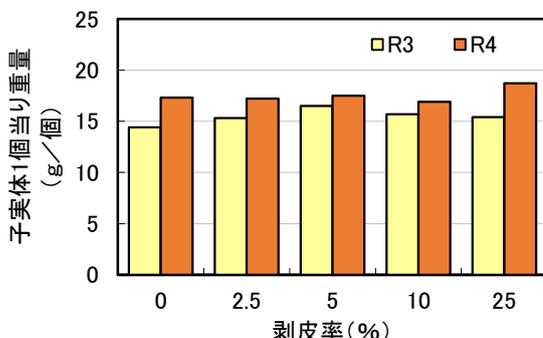


図-3 剥皮率ごとの子実体1個当り重量

(担当 研究部 上席専門研究員 高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <https://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536
F A X 019-697-1410